

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

ソフトボール

2024年/令和6年

第479号

12月号

(毎月1回10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L. 03-5843-0480 F A X. 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L. 03-3811-6911 F A X. 03-3811-6290



男子ソフトボール「世界No.1 サウスポー」が、日本リーグ決勝トーナメントで「本領発揮」!!

C o n t e n t s

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------|
| ・第53回日本男子リーグ決勝トーナメント2 | ・第23回全日本エルデスト大会19 |
| ・第23回全日本エルダー大会21 | |
| ・ニトリ JD.LEAGUE 2024 第13節6 | ・シーズンの締めくくりを飾るべく、 |
| ・ニトリ JD.LEAGUE 2024 プレーオフ10 | それぞれの立ち場で「役割」を果たして！23 |
| ・ニトリ JD.LEAGUE 2024 ダイヤモンドシリーズ ...12 | |
| ・第57回日本女子リーグ順位決定節14 | ・事務局だより25 |

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

第53回日本男子リーグ決勝トーナメント



ダイワアクト
8年ぶりの王座返り咲き！



今シーズンの日本男子リーグの王者を決める「第53回日本男子ソフトボールリーグ決勝トーナメント」が、去る11月9日（土）・10日（日）の両日、埼玉県鴻巣市／上谷総合公園野球場（フラワースタジアム）において開催された。



レギュラーシーズン上位5チームが「最終決戦」!

日本男子リーグ決勝トーナメントは、5年前（2019年）にリーグが「東西統一」されたことを受け、「リーグ戦（レギュラーシーズン）上位5チーム」による「最終順位決定戦」へとシステムを変更。試合方式もソフトボール特有のベジシステム（※敗者復活戦を含むトーナメント方式）が採用され、その現・決勝トーナメントを最後まで勝ち抜いたチームが「日本リーグ優勝」となる形をとっている。

「最終決戦」の舞台には、リーグ戦1位・Honda、リーグ戦2位・ダイワアクト、リーグ戦3位・平林金属、リーグ戦4位・トヨタ、リーグ戦5位・日本エコシステムがそれぞれ進出。「リーグチャンピオン」の座をかけて、熱戦・激闘が繰り広げられた。

▼大会第1日（11月9日／土）

「1回戦」

トヨタ 11-1 日本エコシステム

初日（11月9日／土）は翌日の優勝決定戦・3位決定戦進出をかけた合計3試合が行われ、まず第1試合（1回戦）でトヨタ（リーグ戦4位）と日本エコシステム（リーグ戦5位）が対戦。後攻の日本エコシステムが初回、一死・三塁から4番・吉村利駆杜のセカンドゴロの間に1点を先取したものの、トヨタもすぐに反撃。2回表、5番・杉山喜規、6番・八木孔輝、7番・坂本匠の3連続長短打で逆転に成功すると、3回表にも2番・西森亜夕夢のツーランホームランで2点、5回表にも3番・佐藤光希のツーランで2点、6回表には2番・西森亜夕夢の「この試合2本目」のツーランと6番・八木孔輝のツーランを含む長短5安打を集中して一挙5点を追加!「16安打・

11得点」の猛攻で11-1と6回コールド勝ちを収め、次戦（2回戦）への挑権を得た。



4本塁打を浴びせる等、快調に得点を重ねたトヨタ

【準決勝】 ダイワアクト 0-1 Honda

第2試合（準決勝）では、Honda（リーグ戦1位）とダイワアクト（リーグ戦2位）が激突。Honda・池田空生、ダイワアクト・ジャック・ベスグロープの両先発投手が「一歩も譲らぬ投げ合い」を繰り広げ、序盤3イニングは互いに無得

点。このままスコア掲示に0-0の数字が並んでいくかと思われたが……迎えた4回裏、Hondaの2番・遠畑光希が「初球・甘く入った（ど真ん中に入った）スライダー」を見事にとらえ、ライトへ矢のような当たりのソロホームラン!「値千金の一発」を突き刺し、貴重な先制点を奪った。



Honda・遠畑光希が周囲をアッと驚かせる「一発」を放つ!

守っては、先発・池田空生が「現・男子TOP日本代表エース」の「プライド」を胸に気合い十分、「今、持てる力をフルに使った」まさに「快投」（被安打1・奪三振13）でダイワアクト打線を抑え込み、そのまま1-0の完封勝利。一足先に翌日の優勝決定戦へ駒を進めた。



平林金属は小山玲央を先発させたが…

【2回戦】 トヨタ 6-1 平林金属

第3試合（2回戦）は平林金属（リーグ戦3位）とこの日の第1試合に勝利したトヨタが対戦することとなり、トヨタが2回表、6番・八木孔輝のソロホームランで先手を取れば、平林金属も4回裏に二死一・二塁から9番・黒岩陽斗のタイムリーで同点。1-1で終盤へ入った。

迎えた5回表、トヨタは前の試合3安打（内2本塁打）・4打点と「当たっている」2番・西森亜夕夢がレフトへ大きなアーチを描くソロホームランを放ち、勝ち越し！さらにこの後5番・杉山喜規、8番・小野寺翔太にも相次いでツーランが飛び出す「一発攻勢」で一挙5得点！！6-1と大きくリードを奪った。

投げては、先発・小野寺翔太が得意の「威力あるライズボール」を主体に平林金属打線を4回裏の1点のみに抑え（投球内容は被安打6・奪三振13）、完投勝利。今年の「初代・天皇盃王者」を退け、翌日の3位決定戦進出を決めた。

▼大会第2日（11月10日／日）

【3位決定戦】 トヨタ 0-2 ダイワアクト

2日目（11月10日／日）は3位決定戦・優勝決定戦の2試合が行われ、まず3位決定戦でダイワアクト（初日第2試合の敗者）とトヨタ（初日第3試合の勝者）が対戦。

ダイワアクトはジャック・ベスグロップ、一方のトヨタは小野寺翔太を先発投手に起用。序盤3回まで0-0という状況が続いた。

試合が動いたのは4回裏、ダイワアクトはこの回先頭の4番・永松幸太郎が三塁線を破るスリーベースを放ってチャンスメイクすると、二死後、7番・豊村友之介がツーボール・ワンストライクからの4球目、ライズボールの上がり際、を上手くとらえ、ライトヘッランホームラン！「貴重で大きな2点」を先制した。

守っては、「世界ナンバーワンサウスポー」「絶対的切り札」であるジャック・ベスグロップが「被安打1・奪三振16」と圧巻の投球内容でこのリードを守り抜き、2-0の完封勝利。優勝決定戦で待ち受けるHondaに再度挑むこととなった。

【優勝決定戦】 ダイワアクト 2-1 Honda

優勝決定戦は、2004年に決勝トーナメント制が導入されて以来2回目の優勝を狙うHondaと8年ぶりの王座返り咲きをめざすダイワアクトが「リーグチャンピオン」の座をかけて再戦。

前日の準決勝同様、Honda・池田空生、ダイワアクト・ジャック・ベスグロップの両投手の先発でスタートした試合は、またも「両者譲らぬ、緊迫の投手戦」となり、0-0のまま延長タイブレークに突入。

迎えた延長8回表、ダイワアクトはタイブレークの走者を二塁に置き、代打・吉田和史、大城賢輝がセカンドフライ、空振り三振に倒れ二死となったが、8番・ジョシュ・マクガバンがワンボール・ツーストライクからの4球目、ほぼ真ん中に入ったライズボールを「パンチショット」のような「コン

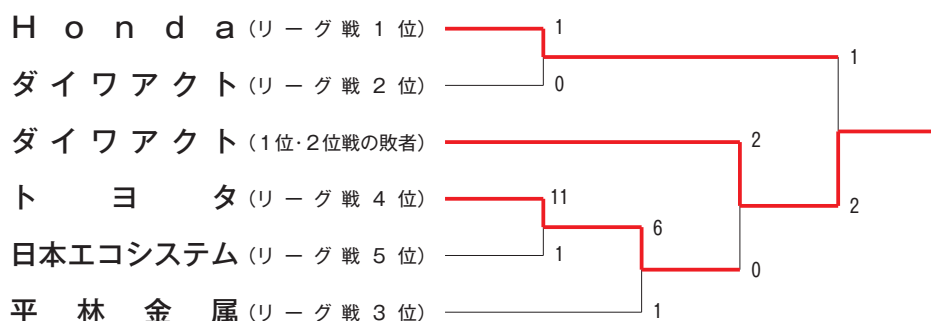
バクトなスイング」で合わせ、レフトへ会心のツーランホームラン！喉から手が出るほど欲しかった先制点を奪った。



8回表、ついに先制！！

投げては、優勝・頂点を目前にしたジャック・ベスグロップが自らのピッチングのギアをさらにもう一段上げ、その裏、Hondaの1番・川島大空を空振り三振、2番・遠畑光希を四球で歩かせた後、3番・坂田大士にライト前へ運ばれ、1点を返されはしたが、4番・浦本大嗣をファーストゴロ、5番・船原雄大を見逃し三振に斬って取り、試合終了！！かつてこのジャック・ベスグロップと同じく、世界最高の左腕と評されたアンドリュー・カークパトリックを擁し、黄金時代（※2010年第39回大会、2011年第40回大会と2年連続で西日本リーグ・決勝トーナメントの「二冠」を達成。決勝トーナメントにおいてはその後2013年、2016年と制し、合計4度王座についた）を築いて以来「8年ぶり」となる「栄冠」を手にした。

第53回日本男子ソフトボールリーグ決勝トーナメント



8年ぶり5回目の優勝
ダイワアクト

決勝トーナメント「最優秀選手」には、ダイワアクトのジョシュ・マクガバンが選ばれた



ダイジェスト動画・フォトギャラリー等は
JSAオフィシャルサイトで！
www.softball.or.jp



東地区

日立 東地区初優勝



ニトリ
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第13節



西地区

トヨタ 西地区3連覇

第13節

「ニトリ JD. LEAGUE 2024」はレギュラーシーズン最終節となる第13節を開催。10月25日（金）27日（日）、「東地区」が埼玉県本庄市、静岡県掛川市、「西地区」が愛知県豊橋市、京都府京都市の計4会場で開催され、「東地区」「西地区」の順位が確定した。

「東地区」では地区優勝まで「あと1勝」「マジック1」に迫っていた日立が今節初戦のホンダ戦に壮烈な打撃戦の末、6ー5で打ち勝ち、「東地区」初優勝。最終戦は敗れたものの、22勝6敗1分で「ダイヤモンドシリーズ」進出を決めた。ビックカメラ高崎も最後まで追撃したが、21勝7敗1分で「東地区」3連覇を逃し、2位で「プレオフ」に進むことになった。3位は21勝8敗の戸田中央。こちらは「初」の「プレオフ」進出となり、18勝11敗で4位となったホンダが「ワイルドカード」を獲得。以上の4チームが「ポストシーズン」へ進出した。

以下、12勝17敗のデンソーが5位につけ、9勝20敗のNECプラットフォームズが6位、8勝21敗の大垣ミナモが7位、太陽誘電が5勝24敗で最下位となった。

「西地区」では、すでに3年連続で地区優勝を決めているトヨタが3連勝でレギュラーシーズン最終節を締めくくり、通算成績26勝3敗で「ダイヤモンドシリーズ」に駒を進めた。

2位はともに20勝9敗でSGホールディングスとシオノギが並んだが、今節「直接対決」を2ー1で競り勝ち、対戦成績2勝1敗で勝ち越したSGホールディングスの順位が「上」となり、2位で3年連続となる「プレオフ」進出が決定。シオノギは同率ながら「直接対決」の勝敗の結果で3位となったが、初の「プレオフ」進出が決まった。

これまで2年連続で「プレオフ」進出を果たしていた豊田自動織機は15勝14敗と星を伸ばせず、4位に甘んじ、「東地区」4位のホンダとの「ワイルドカード」争い（「東地区」「西地区」の4位で勝率の高い方が「ワイルドカード」を獲得し、「プレオフ」に進むことができる。「東地区」4位のホンダが18勝11敗と勝率で上回り、「ワイルドカード」を獲得）に敗れ、5位には11勝18敗の伊予銀行。6位は8勝21敗のタカギ北九州、今節2勝を挙げた東海理化も8勝21敗とし、「同率」に並んだが、タカギ北九州との「直接対決」に1勝2敗と負け越しており、7位。7勝22敗の日本精工が最下位となり、レギュラーシーズンの全日程を終了した。

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第13節「東地区」本庄ラウンド 埼玉県本庄市・ケイアイスタジアム					
月 日		試合結果			
10月25日(金)		戸田中央	メディックス埼玉	1-0	ホンダ リヴェルタ
10月26日(土)	第1試合	ホンダ リヴェルタ		5-6	日立 サンディーバ
	第2試合	戸田中央	メディックス埼玉	4-3	太陽誘電 ソルフィーユ
10月27日(日)	第1試合	ホンダ リヴェルタ		3-1	太陽誘電 ソルフィーユ
	第2試合	戸田中央		5-0	日立 サンディーバ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第13節「東地区」掛川ラウンド 静岡県掛川市・いこいの広場野球場					
月 日		試合結果			
10月26日(土)	第1試合	ビックカメラ高崎 ビークイーン		2-0	大垣 ミナモ
	第2試合	NECプラットフォームズ	レッドファルコンズ	7-3	デンソー ブライトペガサス
10月27日(日)	第1試合	ビックカメラ高崎 ビークイーン		10-7	デンソー ブライトペガサス
	第2試合	NECプラットフォームズ		6-7	大垣 ミナモ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第13節「西地区」豊橋ラウンド 愛知県豊橋市・豊橋市民球場					
月 日		試合結果			
10月25日(金)		トヨタ レッドテリアーズ	10-0	東海理化	チェリーブロッサムズ
10月26日(土)	第1試合	トヨタ レッドテリアーズ		4-0	日本精工 ブレイブベアリーズ
	第2試合	東海理化	チェリーブロッサムズ	2-0	豊田自動織機 シャイニングベガ
10月27日(日)	第1試合	トヨタ レッドテリアーズ		5-2	豊田自動織機 シャイニングベガ
	第2試合	東海理化		4-3	日本精工 ブレイブベアリーズ

ニトリ JD.LEAGUE 2024 第13節「西地区」京都ラウンド 京都府京都市・わかさスタジアム京都					
月 日		試合結果			
10月25日(金)		SGホールディングス	ギャラクシースターズ	4-0	タカギ北九州 ウォーターウェーブ
10月26日(土)	第1試合	伊予銀行 ヴェールズ		2-0	タカギ北九州 ウォーターウェーブ
	第2試合	SGホールディングス	ギャラクシースターズ	2-1	シオノギ レインボーストックス兵庫
10月27日(日)	第1試合	タカギ北九州 ウォーターウェーブ		0-2	シオノギ レインボーストックス兵庫
	第2試合	SGホールディングス		1-2	伊予銀行 ヴェールズ

ニトリ JD.LEAGUE 2024			
東地区 第13節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	◎日立 サンディーバ	22勝6敗1分	0.786
2位	○ビックカメラ高崎 ビークイーン	21勝7敗1分	0.750
3位	○戸田中央 メディックス 埼玉	21勝8敗	0.724
4位	★ホンダ リヴェルタ	18勝11敗	0.621
5位	デンソー ブライトペガサス	12勝17敗	0.414
6位	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	9勝20敗	0.310
7位	大垣 ミナモ	8勝21敗	0.276
8位	太陽誘電 ソルフィュー	5勝24敗	0.172
西地区 第13節終了時点 順位表			
順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	◎トヨタ レッドテリアーズ	26勝3敗	0.897
2位	○SGホールディングス ギャラクシースターズ	20勝9敗	0.690
3位	○シオノギ レインボーストックス兵庫	20勝9敗	0.690
4位	豊田自動織機 シャイニングベガ	15勝14敗	0.517
5位	伊予銀行 ヴェールズ	11勝18敗	0.379
6位	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	8勝21敗	0.276
7位	東海理化 チェリーブロッサムズ	8勝21敗	0.276
8位	日本精工 ブレイブベアリーズ	7勝22敗	0.241

◎「東地区」「西地区」優勝チームはダイヤモンドシリーズ進出
○「東地区」「西地区」2位・3位のチームはプレーオフ進出
★「東地区」「西地区」4位で勝率の高いホンダ リヴェルタがワイルドカードでプレーオフ進出
※「西地区」2位・3位、6位・7位は直接対決の対戦結果により順位を決定



ポストシーズンへ

戦いの舞台は

選手・チームのプロフィール、試合結果、全試合のLIVE配信はJD.LEAGUE公式サイトで

<https://jdleague.jp/>



ニトリ
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2024 プレーオフ



プレーオフ ファーストステージ シオノギ 0－1 ホンダ

「プレーオフ」ファーストステージは「東地区」4位で「ワイルドカード」を獲得し、勝ち上がってきたホンダと「西地区」3位のシオノギが対戦した。

試合はホンダ・ジェイリン・フォード、シオノギ・三輪さくら「両エース」が息詰まる投手戦を展開。両チーム無得点で迎えた5回表、ホンダは一死から四球の走者を出すと、すかさず盗塁。次打者のファーストゴロの間に走者が三塁へ進塁し、3番・木村愛が故意四球で歩かされ、二死一・三塁となった後、4番・山口未葵が三塁線ギリギリを抜ける先制のタイムリー！ ホンダが先手を取った。

一方、シオノギは1点をリードされたまま、迎えた最終回、一死から7番・右田雅が安打を放ち、出塁。二死後、代打・村林乙葉、1番・谷本奈々が二者連続の四球で満塁と攻め立て、「一打逆転サヨナラ」の場面を作ったが……最後の打者が空振り三振に倒れ、ゲームセット！ 「エース」三輪さくらの力投に報いることができず、1点に泣き、完封負けを喫した。



ホンダ・山口未葵のタイムリーが決勝点に

プレーオフ セカンドステージ ビックカメラ高崎 3－1 戸田中央



レジェンド・上野由岐子が1失点完投勝利

「プレーオフ」セカンドステージは「東地区」2位のビックカメラ高崎と同3位の戸田中央が「ダイヤモンドシリーズ」セミファイナル進出をかけ、激突。試合は4回に動いた。

ビックカメラ高崎は4回裏、戸田中央・先発の増田侑希をとらえ、2番・藤本麗の死球、3番・工藤環奈の一・二塁間を抜く安打で一塁走者が一気に三塁へ進塁。打った工藤環奈も送球間に二塁まで進塁し、4番・内藤実穂のライト前へのタイムリー、5番・炭谷遥香のレフトへの犠牲フライで2点を先制。続く5回裏にも1番・藤田倭がレフトスタンドへソロホームランを放ち、3点のリードを奪った。

こうなると試合はビックカメラ高崎のペース。守っては「レジェンド」上野由岐子が6回表に1点を失いはしたものの、「余裕」を持って投げ切り、3－1で勝利を収め、「ダイヤモンドシリーズ」セミファイナル進出を決めた。

プレーオフ セカンドステージ SGホールディングス 1－2 ホンダ

「プレーオフ」セカンドステージ最後の試合は「東地区」4位で「ワイルドカード」を獲得し、勝ち上がってきたホンダと「西地区」2位のSGホールディングスが対戦した。

ホンダは3回表、この回先頭の7番・吉田彩夏がセンター頭上を越えるソロホームラン！ まず1点を先制すると、敵失で出塁した走者が犠打、セカンドゴロの間に三塁まで進塁。2番・大川某由の二遊間を抜くタイムリーでこの回2点を先制した。

2点を追うSGホールディングスは4回裏、内野安打、四球、ピッチャー強襲安打で無死満塁の反撃機をつかみ、5番・エリカ・ピアンカステリがレフトへホームラン性の当たりを放ち、レフト・塚本瑩がフェンスに激突しながらもこれを好捕。これが犠牲フライとなり、1点を返し、なお一死二・三塁のチャンスが続いたが、6番・木下華恋の打席でスクイズを仕掛けるもこれが空振りとなり、三塁走者、二塁走者が挟殺され、ダブルプレイ。痛恨の走塁ミスで好機を逃し、これが「致命傷」となり、1点差で敗れた。



史上最大の下剋上へ…ホンダ、快進撃

ニトリ JD.LEAGUE 2024 プレーオフ 神奈川県川崎市・等々力球場

月 日	試合結果			
11月9日(土)	ファーストステージ	シオノギレインボーストックス兵庫	0-1	ホンダ リヴェルタ
11月10日(日)	セカンドステージ	ビックカメラ高崎 ビークイーン	3-1	戸田中央 メディックス埼玉
	セカンドステージ	ホンダ リヴェルタ	2-1	SGホールディングス ギャラクシースターズ



ニトリ
JD.LEAGUE

ニトリ JD.LEAGUE 2024 ダイヤモンドシリーズ

ダイヤモンドシリーズ セミファイナル トヨタ 3-2 ホンダ

「ダイヤモンドシリーズ」セミファイナルは、「西地区」優勝のトヨタと「東地区」4位、「ワイルドカード」から勝ち上がり、史上最大の下剋上を目論むホンダが対戦した。

トヨタは2回裏、一死から7番・藤家菜々子が左中間に突き刺す先制のソロホームラン！「古巣」相手に恩返しの一発を放つと、続く3回裏にも安打で出塁した走者を犠打で二塁へ進め、二死後、4番・山田柚葵がライトスタンドへツーランホームラン。効果的な「一発攻勢」で試合を有利に進めた。

一方、ホンダは5回表、トヨタ・先発の後藤希友を攻め、怒涛の5連打で1点差に詰め寄り、なお一死満塁と「同点」「逆転」の場面を作ったが、後続がセカンドフライ、空振り三振に倒れ、追加点を奪えず……6回表、7回表はリリーフに立ったメーガン・ファライモに5三振を奪われ、無得点。猛追及ばず、「史上最大の下剋上」の野望は費え、セミファイナルで力尽きた。



ホンダ猛追及ばず…1点差で惜敗

ダイヤモンドシリーズ セミファイナル 日立 3-1 ビックカメラ高崎



日立が山内早織の2本塁打で快勝！

「ダイヤモンドシリーズ」セミファイナルは「東地区」優勝の日立と同2位・ビックカメラ高崎が対戦した。

後攻の日立は初回、「レジェンド」上野由岐子の立ち上がりをとらえ、二死走者なしから3番・杉本梨緒が二遊間を抜く安打を放ち、出塁。続く4番・山内早織が打った瞬間「入った！」とわかる豪快な一撃。センター頭上を遥かに越えるツーランホームランで先手を取った。試合はその後、膠着状態が続き、日立が2点をリードしたまま、迎えた6回裏、4番・山内早織がこの試合2本目となる本塁打を放ち、ダメ押しの3点目。

最終回、好投の「エース」坂本実桜がソロホームランを浴び、さらに安打の走者を出したところで、DP・田内愛絵里が投手の守備を兼務。ここから犠打、安打、盗塁で二死二・三塁の「一打同点」のチャンスを作られたが……1番・藤田倭を再出場・再登板した坂本実桜がキャッチャーファウルフライに打ち取り、試合終了。日立がファイナルへと駒を進めた。

ダイヤモンドシリーズ ファイナル トヨタ 2-1 日立

「連覇」を狙うトヨタと2000年以来となる「戴冠」、JD.リーグとなつてからは「初」の栄冠をめざす日立が「日本一」の座をかけ、激突。「東地区」「西地区」優勝チーム同士の対戦にふさわしい熱戦を展開した。

後攻のトヨタは初回、大方の予想を裏切り、先発に起用された日立の先発・長谷川鈴夏の立ち上がりを攻め、一死から2番・鎌田優希が四球を選び、出塁すると、3番・切石結女がレフトスタンドへ叩き込む先制のツーランホームラン！初回到2点を先制し、優位に試合を進めた。

日立は4回表、トヨタの先発・後藤希友から4番・山内早織、5番・デジャ・ムリポラ、6番・森山遥菜が3連打。一死満塁と攻め立てたが、後続が連続三振に打ち取られ、無得点。続く5回表に2番・笠原朱里がレフトスタンドへ運ぶ追撃のソロホームランを放ち、1点差に詰め寄り、6回裏、最終回と一死・二塁の「一打同点」「長打が出れば逆転」の場面を作ったが……代わったメーガン・ファライモに抑えられ、トヨタが2-1で逃げ切り、見事「連覇」を達成した。



トヨタ・切石結女のツーランが決勝点に

ニトリ JD.LEAGUE 2024 ダイヤモンドシリーズ 愛知県名古屋市・パロマ瑞穂野球場

月 日	試合結果			
11月16日(土)	セミファイナル	トヨタ レッドテリアーズ	3-2	ホンダ リヴェルタ
	セミファイナル	日立 サンディーバ	3-1	ビックカメラ高崎 ビークイーン
11月17日(日)	ファイナル	トヨタ レッドテリアーズ	2-1	日立 サンディーバ



**JAPAN
SOFTBALL
LEAGUE**

第57回
日本女子ソフトボールリーグ
順位決定節



MORI ALL WAVE KANOYA

初優勝！

【順位決定節】 令和6年11月1日（金）～4日（月／振替休日）

※悪天候のため1日順延

鹿児島県南九州市・知覧平和公園多目的球場

●順位決定節・Aブロック 試合概要・試合結果●

「第57回日本女子ソフトボールリーグ」順位決定節・Aブロックは、「プラチナセクション」「サファイアセクション」1位・2位のチームにより「日本リーグ優勝」が争われ、まず1回総当たりのリーグ戦を実施。その順位に基づき、1位・2位のチームが「優勝決定戦」を、3位・4位のチームが「3位決定戦」を行う試合方式で覇が競われた。Aブロック・リーグ戦は「サファイアセクション」1位のMORIAL ALL WAVE KANOYAが厚木SCに6-1、VONDS市原に10-0、大和電機工業に4-3と3戦全勝。リーグ戦1位で「日本リーグ優勝」のかかる「優勝決定戦」に駒を進めた。

「プラチナセクション」1位のVONDS市原は初戦の大和電機工業戦に3-0で勝利したものの、MORIAL ALL WAVE KANOYA戦は初回に大量5点を失い、結局0-10で「まさか……」の大敗。最終戦の厚木SC戦も延長タイブレークにもつれ込む熱戦となり、延長8回表、一気に6点を奪い、6-0で勝利を収め、2勝1敗とした。

「サファイアセクション」2位の大和電機工業は初戦のVONDS市原戦で9安打を放ちながら、0-3の完封負け。厚木SC戦は最終回、猛追を受

けながらも6-4で打ち勝ち、最終戦のMORIAL ALL WAVE KANOYA戦に勝利すれば、MORIAL ALL WAVE KANOYA、VONDS市原、大和電機工業が2勝1敗の「同率」で並び、VONDS市原がMORIAL ALL WAVE KANOYAに0-10で大敗を喫していたため、得失点差で2位となり、大和電機工業の「優勝決定戦」進出の可能性が残る「大一番」となった。この試合、MORIAL ALL WAVE KANOYAが3点をリードし、最終回を迎え、ここから大和電機工業が驚異的な粘りを見せ、4安打を集中し、打者一巡の猛攻で一気に3-3の同点に追いついたのだが……その裏、サヨナラで惜しくも敗れ、1勝2敗で3位となった。

「プラチナセクション」2位の厚木SCはリーグ戦3戦全敗。レギュラーシーズンで見せた戦いができず、「本来の力」を発揮できないまま、4位で「3位決定戦」に回ることになった。

大会最終日（11月4日/月）の「3位決定戦」はリーグ戦1勝2敗で3位の大和電機工業と3戦全敗で4位の厚木SCが対戦。大和電機工業が2-0の完封で勝利を収め、3位が確定。厚木SCはこの「順位決定節」では1勝

もできず、4位に終わった。

日本リーグ優勝をかけた「優勝決定戦」はリーグ戦3戦全勝で1位のMORIAL ALL WAVE KANOYAと2勝1敗で2位のVONDS市原が対戦。リーグ戦での対戦では大敗を喫したVONDS市原が3回表、8番・吉田汐里の右越二塁打からチャンスをつかみ、犠打で走者を三塁へ進め、1番・塚本楓花の三塁内野安打で三塁走者が還り、先取点を挙げた。

「地元」の大声援を受けるMORIAL ALL WAVE KANOYAも5回裏、二死者者なしから8番・谷川まきがフルカウントから四球を選び、出塁。テンポラリランナーに起用された永山愛実がすかさず盗塁し、得点圏に走者を進め、ジワジワとプレッシャーをかけ、9番・山根楓加がレフト頭上を越える適時二塁打。1-1の同点に追いつき、満員のスタンドのボルテージは最高潮に達し、1番・藤田直が逆転の適時二塁打。2-1と試合をひっくり返した。このリードを先発・竹原由菜の後を受け、5回から登板していた「エース」中野花菜が守り切り、2-1で勝利を収め、「念願」の日本リーグ初優勝をその手につかみ、詰めかけた「地元」の大観衆と「優勝」の喜びを分かち合った。

第57回日本女子ソフトボールリーグ 順位決定節 Aブロック 試合結果					
月 日	試合結果				
11月1日(金)	第1試合	SS2位 大和電機工業	0-3	PS1位 VONDS市原	
	第2試合	SS1位 MORI ALL WAVE KANOYA	6-1	PS2位 厚木SC	
	第3試合	PS2位 厚木SC	4-6	SS2位 大和電機工業	
11月2日(土)	第1試合	PS1位 VONDS市原	雨天順延	SS1位 MORI ALL WAVE KANOYA	
	第2試合	PS2位 厚木SC	雨天順延	PS1位 VONDS市原	
	第3試合	SS1位 MORI ALL WAVE KANOYA	雨天順延	SS2位 大和電機工業	
11月3日(日)	第1試合	PS1位 VONDS市原	0-10	SS1位 MORI ALL WAVE KANOYA	
	第2試合	PS2位 厚木SC	0-6	PS1位 VONDS市原	
	第3試合	SS1位 MORI ALL WAVE KANOYA	4-3	SS2位 大和電機工業	
11月4日(月)	3位決定戦	リーグ戦4位 厚木SC	0-2	リーグ戦3位 大和電機工業	
	優勝決定戦	リーグ戦1位 MORI ALL WAVE KANOYA	2-1	リーグ戦2位 VONDS市原	

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

●順位決定節・Bブロック 試合概要・試合結果●

「第57回日本女子ソフトボールリーグ」順位決定節・Bブロックは、「プラチナセクション」「サファイアセクション」3位・4位のチームにより「5位」「8位」が争われ、まず1回総当たりのリーグ戦を実施。その順位に基づき、1位・2位のチームが「5位決定戦」を、3位・4位のチームが「7位決定戦」を行う試合方式で最終順位を決定した。Bブロック・リーグ戦は「プラチナセクション」4位のYKKが初戦のCitrine Ichinomiya戦に5―1で快勝し、続く花王コスメ小田原戦も延長8回タイブレークの末、3―1で勝利を収め、最終戦の平林金属戦も8―2で打ち勝ち、3戦全勝の1位で「5位決定戦」進出を決めた。レギュラーシーズンで「日本リーグ優勝」をかけて戦う「順位決定節・Aブロック」進出を最後まで争った「プラチナセクション」3位の平林金属は、この「順位決定節」では元氣なく3連敗。「7位決定戦」に回るようになった。

「サファイアセクション」3位のCitrine Ichinomiyaは初戦のYKK戦を1―5で落とした後、平林金属に3―2のサヨナラ勝ち。最終戦の花王コスメ小田原戦も2―1の逆転サヨナラと僅差の接戦を制し、2勝1敗



7位となった花王コスメ小田原

の2位で「5位決定戦」に駒を進めた。「サファイアセクション」4位の花王コスメ小田原は、初戦の平林金属戦は4―13のサヨナラ勝ち。続くYKK戦は延長タイブレークの末、1―3で敗れ、最終戦のCitrine Ichinomiya戦は最終回ようやく1点を勝ち越したのも束の間、その裏、2点を奪われ、逆転サヨナラ負け。1勝2敗の3位で「7位決定戦」を戦うことになった。

「7位決定戦」は、リーグ戦1勝2敗で3位の花王コスメ小田原と3戦全敗の平林金属が対戦。延長タイブレークにもつれ込む熱戦の末、1番・岡田南の適時二塁打で挙げた勝ち越しの1点を守り切り、花王コスメ小田原が4―13で競り勝ち、7位。敗れた平林金属は8位に甘んじる結果となった。



Citrine Ichinomiyaが鮮やかな集中打で5位の座を確保

「5位決定戦」はリーグ戦3戦全勝で1位のYKKと2勝1敗で2位のCitrine Ichinomiyaが対戦。Citrine Ichinomiyaが3回裏、9番・船山優果、1番・宮本星南、2番・林佑奈、3番・五十嵐綺羅良の4連続長短打と5番・奥村涼のセンターへの犠牲フライで4点を挙げ、有利に試合を進め、守っては先発・川原麻里がYKKの強力打線を散発5安打に抑え、完封。4―0で勝利を収め、「順位決定節」Bブロック最上位の5位となり、敗れたYKKは6位となった。

第57回日本女子ソフトボールリーグ 順位決定節 Bブロック 試合結果

月 日		試合結果			
11月1日(金)	第1試合	SS4位 花王コスメ小田原 フェニックス	4―3	PS3位 平林金属 Peachblossoms	
	第2試合	SS3位 Citrine Ichinomiya	1―5	PS4位 YKK	
	第3試合	SS4位 花王コスメ小田原 フェニックス	1―3	PS4位 YKK	
11月2日(土)	第1試合	SS3位 Citrine Ichinomiya	雨天順延	PS3位 平林金属 Peachblossoms	
	第2試合	PS3位 平林金属 Peachblossoms	雨天順延	PS4位 YKK	
	第3試合	SS3位 Citrine Ichinomiya	雨天順延	SS4位 花王コスメ小田原 フェニックス	
11月3日(日)	第1試合	SS3位 Citrine Ichinomiya	3―2	PS3位 平林金属 Peachblossoms	
	第2試合	PS3位 平林金属 Peachblossoms	2―8	PS4位 YKK	
	第3試合	SS3位 Citrine Ichinomiya	2―1	SS4位 花王コスメ小田原 フェニックス	
11月4日(月)	7位決定戦	リーグ戦4位 平林金属 Peachblossoms	3―4	リーグ戦3位 花王コスメ小田原 フェニックス	
	5位決定戦	リーグ戦2位 Citrine Ichinomiya	4―0	リーグ戦1位 YKK	

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

●順位決定節・Cブロック 試合概要・試合結果●

「第57回日本女子ソフトボールリーグ」順位決定節Cブロックは、「プラチナセクション」「サファイアセクション」5位・6位のチームにより「9位」12位」が争われ、まず1回総当たりのリーグ戦を実施。その順位に基づき、1位・2位のチームが「9位決定戦」を、3位・4位のチームが「11位決定戦」を行う試合方式で最終順位を決定した。

Cブロック・リーグ戦は「プラチナセクション」5位の静甲がルネス紅葉スポーツ柔整専門学校に1-0の完封勝ち。続く小泉病院戦も9-0の大勝。最終戦のペヤング戦も2-0の完封で3戦全勝。3試合連続の完封勝利で「9位決定戦」進出を決めた。

「サファイアセクション」5位の小泉病院は初戦のペヤング戦が延長タイブレークにもつれ込む熱戦となり、2-1のサヨナラで初戦を勝利で飾ったが、続く静甲戦は0-9の大敗。最終戦のルネス紅葉スポーツ柔整専門学校は2点を先制されながら追いつき、延長タイブレークの末、3-2のサヨナラ。苦しみながらも2勝1敗で「9位決定戦」に駒を進めた。

「プラチナセクション」5位のペヤングは初戦の小泉病院戦、一度は同点に迫いつきながら延長タイブレークの

末、サヨナラ負け。続くルネス紅葉スポーツ柔整専門学校戦は4-0で快勝し、1勝1敗と五分の星に戻したが、最終戦の静甲戦は0-2の完封負け。1勝2敗の3位で「11位決定戦」に回ることにした。

「サファイアセクション」6位のルネス紅葉スポーツ柔整専門学校は初戦の静甲戦を延長9回タイブレークの末、0-1で落とし、続くペヤング戦も0-4で完敗。最終戦の小泉病院戦は4回表に2点を先制しながら3-2のサヨナラ負け。好ゲームを演じながら「初勝利」が遠く、レギュラーシーズンから合算すると勝ち星なしの15連敗。「11位決定戦」で今シーズン初勝利をめざすことになった。

「11位決定戦」は1勝2敗で3位のペヤングと3戦全敗で4位のルネス紅葉スポーツ柔整専門学校の対戦となり、ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校が6回表、3番・木下奈津、4番・樋口柚妃の連打から二死・三塁の先制のチャンスをつかみ、再出場した6番・松永葉がレフト前にタイムリー！ 二者が還り、2点を先制した。これで「今シーズン初勝利」かと思われたが……最終回、ここまで好投していた先発・小林美紅が突然コントロールを乱し、

二死・一・二塁と勝利まで「あと一人」としながら3連続四死球で二者連続の押し出し。2-2の同点に追いつかれてしまった。それでも……延長タイブレークに入った8回表、再び1点を勝ち越し、前のイニングから登板していた小田澤理乃がペヤング必死の反撃を無得点に抑え、3-2で逃げ切り。嬉しい今シーズン初勝利で「最下位」を脱出。11位となり、敗れたペヤングが最下位に転落してしまった。

「9位決定戦」はリーグ戦3戦全勝で1位の静甲と2勝1敗で2位の小泉病院が対戦。静甲が投打に圧倒し、6-0で完勝。昨シーズンの「日本リーグ覇者」の意地を見せ、「順位決定節」Cブロック最上位の9位となった。敗れた小泉病院は10位となり、昨シーズンの2位から大きく順位を落とす結果となってしまった。



今シーズン初勝利で最下位脱出！
ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校

第57回日本女子ソフトボールリーグ 順位決定節 Cブロック 試合結果

月 日	試合結果			
11月1日(金)	第1試合	PS5位 静甲	1-0	SS6位 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
	第2試合	SS5位 小泉病院 Blue Arrows	2-1	PS6位 ペヤング
	第3試合	PS6位 ペヤング	4-0	SS6位 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
11月2日(土)	第1試合	PS5位 静甲	雨天順延	SS5位 小泉病院 Blue Arrows
	第2試合	PS5位 静甲	雨天順延	PS6位 ペヤング
	第3試合	SS5位 小泉病院 Blue Arrows	雨天順延	SS6位 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
11月3日(日)	第1試合	PS5位 静甲	9-0	SS5位 小泉病院 Blue Arrows
	第2試合	PS5位 静甲	2-0	PS6位 ペヤング
	第3試合	SS5位 小泉病院 Blue Arrows	3-2	SS6位 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
11月4日(月)	11位決定戦	リーグ戦3位 ペヤング	2-3	リーグ戦4位 ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
	9位決定戦	リーグ戦2位 小泉病院 Blue Arrows	0-6	リーグ戦1位 静甲

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

2024年度（令和6年度） 第 57回日本女子ソフトボールリーグ 順位決定節 戦績表

Aブロック(各セクションの1・2位)

	VONDS市原	MORI ALL WAVE KANOYA	厚木SC	大和電機工業	勝 数	敗 数	リーグ戦 順位
VONDS市原	☆	● 0 - 10	○ 6 - 0	○ 3 - 0	2	1	2
MORI ALL WAVE KANOYA	○ 10 - 0	☆	○ 6 - 1	○ 4 - 3	3	0	1
厚木SC	● 0 - 6	● 1 - 6	☆	● 4 - 6	0	3	4
大和電機工業	● 0 - 3	● 3 - 4	○ 6 - 4	☆	1	2	3

Bブロック(各セクションの3・4位)

	平林金属 Peachblossoms	Citrine Ichinomiya	YKK	花王コスメ 小田原 フェニックス	勝 数	敗 数	リーグ戦 順位
平林金属 Peachblossoms	☆	● 2 - 3	● 2 - 8	● 3 - 4	0	3	4
Citrine Ichinomiya	○ 3 - 2	☆	● 1 - 5	○ 2 - 1	2	1	2
YKK	○ 8 - 2	○ 5 - 1	☆	○ 3 - 1	3	0	1
花王コスメ 小田原 フェニックス	○ 4 - 3	● 1 - 2	● 1 - 3	☆	1	2	3

Cブロック(各セクションの5・6位)

	静甲	小泉病院 Blue Arrows	ペヤング	ルネス紅葉	勝 数	敗 数	リーグ戦 順位
静甲	☆	○ 9 - 0	○ 2 - 0	○ 1 - 0	3	0	1
小泉病院 Blue Arrows	● 0 - 9	☆	○ 2 - 1	○ 3 - 2	2	1	2
ペヤング	● 0 - 2	● 1 - 2	☆	○ 4 - 0	1	2	3
ルネス紅葉	● 0 - 1	● 2 - 3	● 0 - 4	☆	0	3	4



MORI ALL WAVE KANOYA	(Aブロック1位)	2	1位	MORI ALL WAVE KANOYA
VONDS市原	(Aブロック2位)	1	2位	VONDS市原
大和電機工業	(Aブロック3位)	2	3位	大和電機工業
厚木SC	(Aブロック4位)	0	4位	厚木SC
YKK	(Bブロック1位)	0	5位	Citrine Ichinomiya
Citrine Ichinomiya	(Bブロック2位)	4	6位	YKK
花王コスメ小田原フェニックス	(Bブロック3位)	4	7位	花王コスメ小田原フェニックス
平林金属Peachblossoms	(Bブロック4位)	3	8位	平林金属Peachblossoms
静甲	(Cブロック1位)	6	9位	静甲
小泉病院 Blue Arrows	(Cブロック2位)	0	10位	小泉病院 Blue Arrows
ペヤング	(Cブロック3位)	2	11位	ルネス紅葉
ルネス紅葉	(Cブロック4位)	3	12位	ペヤング

第23回全日本エルデスト大会

令和6年10月19日(土)～21日(月) 静岡県浜松市浜北天竜川運動公園

記録提供: 静岡県協会記録委員会

OBB 草津 (滋賀)

初の栄冠

大会は初日(19日/土)に1回戦・2回戦の計32試合、2日目(20日/日)に3回戦・準々決勝の計12試合が行われ、最終日(21日/月)を迎えた。熱戦を勝ち上がり、ベスト4には川口ハローニー(埼玉)、OBB草津(滋賀)、RUSH! (三重)、国立Liberty(東京)が進出。「頂点」をかけた最後の戦いに挑んだ。



精鋭48チームがエルデストの頂点をめざし、熱戦展開!

本大会は10月19日(土)～21日(月)の3日間、静岡県浜松市を舞台に開催され、女子最年長のカテゴリー「エルデスト」(50歳以上)の「日本一」をめざして、全48チームが元気に集結し、熱戦を繰り広げた。

〈準決勝〉川口ハーモニー 0-7 OBB草津

後攻の草津は初回、連続四死球と盗塁で無死二・三塁の先制機をつかみ、3番・大西伸子がレフト前タイムリー、さらにワイルドピッチと4番・小伝良秀美のレフト前タイムリーで早々と3点を先取した。

草津は2回裏にも、先制打を放った3番・大西伸子の適時二塁打と相手守備の乱れで3点を追加。3回裏には、二死三塁から9番・谷口真紀がセンター前タイムリーを放ち、7点目を挙げ、序盤で試合を決めてしまった。

投げては、「エース」村瀬聖子が川口打線に6安打されながらも得点を許すことなく、完封。5回コールドの圧勝で決勝へ駒を進めた。



OBB草津が2年連続の決勝進出

〈準決勝〉国立Liberty 10-9 RUSH!

両チーム「取られたら取り返す!」激しい点の奪い合いになり、序盤3回を終了して7-6とRUSHが1点リード。

4回も国立が2点を奪い逆転すれば、RUSHも1点を取り返して試合を振り出しに戻し、8-8の同点のまま制限時間（90分）を迎え、7回から延長タイブレークに入った。



大熱戦を制し、決勝への切符をもぎ取った国立

迎えた7回表、国立はタイブレークの走者を二塁に置き、一死後、7番・増田真由美が二遊間安打。さらに代走・永峰まゆみが二盗を決め、二・三塁とすると、8番・吉岡みどりのセカンドへの当たりで三塁走者がスタート良く生還し、再び勝ち越し。相手守備の乱れで二塁走者も還り、2点のリードを奪った。

RUSHもその裏、二死三塁から9番・前唄一美の内野安打で1点を返し、最後の最後まで食らいついたが……「あと一步」及ばず。国立が10-9の大熱戦を制し、決勝進出を決めた。

《決勝》国立Liberty 0-7 OBB草津

決勝は国立・藤井典代、草津・村瀬聖子の両エースが先登板。

試合が動いたのは3回裏、草津はこの回先頭の3番・大西伸子が死球で出塁すると、4番・小伝良秀美のセカンドゴロが相手守備の乱れを誘う間に一気に生還。なお無死三塁のチャンスが続き、5番・内田幸代がサード強襲の当たりを放ち、2点目を追加。

4回裏にも、一死から連打と四球で満塁と攻め立て、3番・大西伸子の三遊間を破るタイムリー、さらにワイルドピッチ、5番・内田幸代のセンター前への2点タイムリーで一挙4点を加え、6-0と大きくリード。

5回裏には、一死から連打、犠打で二死二・三塁とし、3番・大西伸子のファースト強襲タイムリーで5回コールド勝ちを成立させる7点目! 7-0で国立を圧倒した草津が「初優勝」をつかんだ。



2試合連続完封! 初優勝の立役者となった村瀬聖子

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本ソフトボール協会オフィシャルHPで

第16回全日本エルダー大会

令和6年11月2日(土)～4日(月・振替休日) 滋賀県高島市今津総合運動公園

記録提供: 滋賀県協会記録委員会



4チーム優勝で閉幕

標記大会は2010年の「第15回全日本エルダー大会」の開催を最後に「日本スポーツマスターズ大会」に統合される形となり、日ソ協単独の大会としては開催されていなかったが、今年度より「復活」。14年ぶりに開催されることとなった。



14年ぶりの開催となったエルダー大会に35チームが集結

大会には全国各都道府県の代表35チームが参加。11月2日(土)～4日(月・振替休日)の3日間、滋賀県高島市今津総合運動公園を舞台に熱戦を繰り広げた。

大会初日(2日/土)、1回戦・2回戦を実施する予定であったが豪雨に見舞われ中止。翌日に順延となり、2

日目(3日/日)に2回戦までの19試合、3日目(4日/月・振替休日)に3回戦・準々決勝の12試合を実施。初日中止の影響で準決勝・決勝は行えず、世田谷クラブ(東京)、津ニュークイーンズ(三重)、豊中MARS(大阪)、狭山エンジェルス(埼玉)の4チーム優勝で閉幕することになった。

〈準々決勝〉

世田谷クラブ 6-4 ブルードルフィンズ
初回、先制を許した世田谷はその裏、1番・東野典子がライトオーバーの三塁打で出塁し、次打者のショートゴロエラーの間に生還。さらに3番・道音貴子のセンター前ヒット、内野ゴロ、バント安打で一死満塁と攻め立て、6番・伊藤隆子の犠牲フライで三塁走者を迎え入れ、2-1と逆転に成功した。1点を追うブルードルフィンズは3回表に4本の長短打で3点を挙げ、再びリードを奪ったが、その裏、世田谷も5番・鈴木美佳、6番・伊藤隆子の連続長打と8番・佐山とも子のタイムリーで2点を奪い、4-4の同点に追いついた。

世田谷は4回裏にも2番・佐々木百合香、3番・道音貴子の連打と5番・鈴木美佳のタイムリーで5-4と勝ち越し。再び試合をひっくり返し、リードを奪うと、5回裏にも、8番・佐山

とも子の内野安打から追加点のチャンスをつかみ、2番・佐々木百合香のタイムリーツーベースで1点を加え、2点差にリードを広げ、そのまま6―4で押し切り、初優勝を飾った。



二桁12安打の猛攻で6点を奪い、初優勝をつかんだ世田谷

〈準々決勝〉

津ニュークイーンズ 7―3 ライナーズ

先攻のニュークイーンズは初回、2番・柘植裕子、3番・岡崎アリサの長短打等で二死二・三塁の先制のチャンスをつかみ、5番・飯田昌代のタイムリーで二者が生還。2点を先制。3回表にも四球で出塁した走者を2つの犠打で三塁まで進め、4番・二宮亜理紗

のタイムリーで1点を加え、3―0とリードを広げた。

1点を返され迎えた5回表にも、四球で出塁した走者を一塁に置き、3番・岡崎アリサ、4番・二宮亜理紗の長短打で2点を挙げ、2点を返された後の6回表にも、安打、犠打失策等で二死二・三塁とし、1番・増井宮由來のタイムリーツーベースでダメ押しの2点を追加。7―3とライナーズを突き放し、初の栄冠を手にした。



接戦を勝ち上がってきたニュークイーンズが初の栄冠

〈準々決勝〉

リターンズ 1―6 豊中MARS

先攻のMARSは初回、死球で出塁した走者が盗塁、内野ゴロで三塁へ進

み、ワイルドピッチであっさりと先制。続く2回表にも死球と6番・豊山康恵、7番・川波舞美のバント安打で満塁とし、8番・村田有子が一・二塁間を抜くタイムリー。1点を追加し、リードを広げた。

2点を追うリターンズも5回裏、連続四死球と犠打で一死二・三塁とし、次打者のセカンドゴロがエラーとなる間に三塁走者が生還。1点を返した。

しかし、直後の6回表、リターンズはバッテリーミスや5番・岡澤文香に2点タイムリーツーベースを浴びる等、この回4点を奪われ、勝負あり。

MARSのエース・村田有子の前にわずか2安打。1点を返すのが精一杯で、優勝には手が届かず、1―6で敗れた。

〈準々決勝〉

愛乃和 O―5 狭山エンジェルス

両チーム無得点のまま迎えた終盤6回表、狭山は一死から3番・森田直栄、4番・荒川慎子の連打と相手守備の乱れで1点を先制し、試合の均衡を破ると、なお一死二・三塁のチャンスが続き、6番・角田裕美のタイムリーで三塁走者が生還。さらに野手選択で満塁となり、8番・長谷部雅美のショートゴロの間に三塁走者がホームイン。続く9番・町田季子、1番・飯島美貴の

連続タイムムリーで2点を加え、この回一挙5点を奪い、試合を決めた。投げては、エース・小見山理恵が8安打されながらも要所を締めるピッチングで愛乃和打線を抑え込み、5―0の完封勝利。初優勝に輝いた。



「エース」小見山理恵が愛乃和打線を完封！

大会結果詳細、
全試合インングスコアは
日本ソフトボール協会
オフィシャルHPで

シーズンの「最後」を飾る熱戦を展開！



それぞれの立場でそれぞれの役割を果たして

3月に始まった「ソフトボールシーズン」も日本男子リーグ・女子リーグ、J.D.リーグで優勝チームが決定。全日本大会も「代替開催」となった「第33回全日本実年大会」（当初、8月31日（土）～9月2日（月）、大分県大分市で開催予定であったが「台風10号」の影響で中止。12月7日（土）～9日（月）、福岡県北九州市で代替開催されることになった）を残すのみとなり、今号が発行される頃にはすべての大会が終了していることになる。

長いシーズン、選手・チームは「日本一」の座をめざし、大会運営に携わる皆さんは、円滑な大会運営と大会に参加してくださった皆さんに「いい大会だった」「思い出に残る大会となった」と言っていただけのように全力を尽くして大会に臨んでいた。

まだ肌寒さの残る春の大会、酷暑の中で開催された夏の大会、朝晩、あるいはその日ごとに寒暖差のある秋の大会……悪天候で途中打ち切りを余儀なくされる大会もあったが、それぞれの立場で、それぞれの役割を全うすべく全力を尽くした。

オフシーズンを迎えても、その間に審判員、記録員の認定会、講習会、指導者資格の認定・講習会等、随時行われている。新たなシーズンへ向け、それぞれの「戦い」はもう始まっている。

全日本大会



日本男子リーグ・女子リーグ JD.リーグ



事務局だより

「令和6年度秋の叙勲」にて 日本協会・宇津木妙子副会長 三宅豊前会長が受章！

去る11月3日（日／文化の日）、総務省より「令和6年度秋の叙勲」が発表され、日本ソフトボール協会・宇津木妙子副会長が「旭日小綬章」を、三宅豊前会長（現名誉会長）が「旭日双光章」をそれぞれ受章した。



かつて「女子日本代表ヘッドコーチ」を務め、オリンピックの舞台で銀メダル・銅メダルを獲得した宇津木妙子氏

宇津木妙子副会長は、かつて「女子日本代表ヘッドコーチ」として2000年シドニー・2004年アテネと、オリンピックの舞台で二度メダルを獲得（※シドニーオリンピックでは予選リーグから決勝進出まで『全勝』。決勝で敗れたが「限りなく金メダルに近い銀メダル」と高く評価され、続くアテネオリンピックでも銅メダルを獲得）。厳しくも愛ある指導には定評があり、2005年に「指導者」として「初」の国際殿堂入りを果たした。現在は日本ソフトボール協会副会長（国際本部長・国際連携委員会委員長



ソフトボールの普及・発展のため、現在も国内外を飛び回っている

も兼ねる）を務める傍ら、女子ソフトボール国内トップリーグ「ニトリJ.D. LEAGUE」副会長兼キャプテンとしても尽力。WBSA（世界野球ソフトボール連盟）においても執行理事、理事職およびソフトボールディビジョン理事職という要職にあり、ソフトボールのさらなる普及・発展を図るべく「日本」「世界」を飛び回っている。

三宅豊前会長（現名誉会長）は、日本ソフトボールにおける「不世出の大投手」として世界選手権に4大会連続で出場。新島学園高校3年時に高校生で初めて「ワインドミル投法」を操り、全国制覇。その後の「全国優勝」は「29回」を数える。ダイナミックなピッチングフォームは、鳳凰が舞うが如しと形容され、日本人の「ブレイヤー」として「初」の国際殿堂入りを果たした。



三宅豊氏は現役時代「不世出の大投手」と称され、輝かしく、伝説的な実績を残した

現役引退後は日本ソフトボール協会役員（主に選手強化本部長として男女日本代表の「強化」を統括・指揮）の立場で長きにわたり力を尽くし、2021年日本協会「会長」に就任。コロナ禍等いきなり困難な状況に直面しながらも、自らが信じ描く日本協会の、ひいてはソフトボールそのものの「あり方」「進むべき道」を提唱し続けた。今年（2024年）6月の役員改選で2期4年務めた会長を退き、現在は日本協会「名誉会長」として、ソフトボールの未来を見守っている。



日本協会役員としても要職を歴任され、長きにわたり尽力